

社会福学科 介護福祉専攻 1年 前期 専門科目

1. 人間関係とコミュニケーション I
2. 社会と制度の理解 I
3. 介護の基本 I
4. コミュニケーション技術 I
5. 生活支援技術 I-①
6. 生活支援技術 II-①
7. 介護過程 I
8. 介護総合演習 I
9. 発達と老化の理解 I
10. 障害の理解 I
11. こころとからだのしくみ III
12. 介護実習 I-①

社会福祉学科				介護福祉 専攻		1 年	
科目名：人間関係とコミュニケーション I				担当教員 氏名：宮嶋 潔、松尾 祐子、寺岡 栄一			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考		
1	1年次 前期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：		社会福祉士の資格を活かし、利用者とのコミュニケーションや面談のあり方を経験をもとに授業で活かしている。					
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード			
介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う。				自己覚知、ラポール、コミュニケーション、面接技術			
授業における学修の到達目標							
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.			
B 専門的技術		介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。					
E 自己管理能力		介護福祉士として、自らを律して行動できる。					
F チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動できる。					
G 倫理観		尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。					
H コミュニケーション力		福祉専門職として他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につける。					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト： %	レポート： 50 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： 30 %			
特記事項： 「その他：30%」では、演習に対する取り組みや態度について評価する。 本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークを活用し、学生相互の理解を深める。							
アクティブ・ラーニング要素： 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク							
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第2回目以降、毎回の授業終了後に自己評価を実施する。							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポート課題に評価を付けて学生に返却する。							
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)			
				学習内容			学習に必要な時間(分)
①全体オリエンテーション～自己紹介～				演習を振り返る			【復習】30分
②自己覚知～自分の価値観について～				演習を振り返る			【復習】30分
③自己理解・他者理解～ライフストーリー～				演習を振り返る			【復習】30分
④支援関係における人間関係の形成～ラポールの形成～				演習を振り返る			【復習】30分
⑤対人関係とコミュニケーション①～一方向のコミュニケーションと双方向のコミュニケーション～				演習を振り返る			【復習】30分
⑥対人関係とコミュニケーション②～言語的メッセージ、準言語的メッセージ、非言語的メッセージ～				演習を振り返る			【復習】30分
⑦対人関係とコミュニケーション③～対人空間のとり方(面接の環境づくり)～				演習を振り返る			【復習】30分
⑧介護福祉士にとってのコミュニケーション技術の必要性・中間まとめ				演習を振り返る			【復習】30分
⑨コミュニケーションの技法①～傾聴～				演習を振り返る			【復習】30分
⑩ビデオ学習～信頼関係を結ぶ面接技術～				演習を振り返る			【復習】30分
⑪コミュニケーションの技法②～開かれた質問と閉ざされた質問～				演習を振り返る			【復習】30分
⑫コミュニケーションの技法③～効果的な質問～				演習を振り返る			【復習】30分
⑬認知症高齢者とのかかわり方①～バリデーション～				演習を振り返る			【復習】30分
⑭認知症高齢者とのかかわり方②～回想法～				演習を振り返る			【復習】30分
⑮介護福祉士と利用者とのかかわり方について・まとめ				演習を振り返る			【復習】30分
使用テキスト： 新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」中央法規 ISBN978-4-8058-5761-8				その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介する。			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 演習のため、積極的な参加を心がけてください。							

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 社会と制度の理解 I				担当教員 氏名: 宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:				社会福祉士としての実務経験をもとに事例を交えながら授業する。		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。また、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。				生活時間、生活支援、社会保障(制度)、福祉六法		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.		
A 知識・理解力	人間を捉える視点で、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解できる。また、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解できる。					
C 論理的思考力	「社会保障」に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。					
G 倫理観	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション～自立した生活を営むとは～			【予習】テキスト第1章第1節1を読む 【復習】①の復習		【予習】30分 【復習】30分	
②生活時間について～他者との比較～			【予習】自分の生活時間を記録 【復習】②の復習		【予習】30分 【復習】30分	
③家族とは～家族の機能と役割～			【予習】テキスト第1章第2節を読む 【復習】③の復習		【予習】30分 【復習】30分	
④地域と社会～コミュニティとアソシエーション～			【予習】テキスト第1章第3節を読む 【復習】④の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑤ライフスタイルの変化と社会構造の変容			【予習】テキスト第1章第4・5節を読む 【復習】⑤の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑥生活支援と福祉～自助・共助・公助～			【予習】テキスト第1章第6節を読む 【復習】⑥の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑦家族、地域・社会に対する介護福祉士が果たすべき役割とは・中間まとめ			【予習】①～⑥の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑧社会保障(制度)～私たちが利用してきた社会保障制度は?～			【予習】テキスト第2章第1節を読む 【復習】⑧の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑨DVD学習～社会保障制度について考える～			【予習】テキスト第2章第3節を読む 【復習】⑨の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑩社会福祉の制度①～社会福祉制度の歴史と変遷～			【予習】テキスト第2章第2節を読む 【復習】⑩の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑪社会福祉の制度②～福祉六法～			【予習】福祉六法の概観を理解する 【復習】⑪の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑫DVD学習～社会福祉制度・サービスについて考える～			【予習】テキスト第2章第3節を読む 【復習】⑫の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑬社会保障と関連制度			【予習】テキスト第2章第4節1～3を読む 【復習】⑬の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑭DVD学習～これからの社会保障制度を考える～			【予習】テキスト第2章第4節4を読む		【予習】30分 【復習】30分	
⑮介護福祉士と社会保障制度・まとめ			【予習】⑧～⑭の復習		【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト: 最新・介護福祉士養成講座2「社会と制度の理解」中央法規 ISBN978-4-8058-5762-5 「福祉小六法」中央法規 ISBN978-4-8058-5812-7 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。				その他参考文献など: 「厚生労働白書」(毎年発行)		

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: 介護の基本 I				担当教員 氏名: 野村 幸伸		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
4	1年次	前期	専門科目	講義	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 介護福祉士としての実務経験や施設管理者としての経験から授業を担当する。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
本科目は介護領域の基盤となる科目です。介護の目的、求められる介護福祉士の全体像について理解する。また、介護福祉士の専門領域である生活や生活障害の理解、生活を流れ捉え、その人らしい生活支援への視点についての基礎知識を習得する。						生活 その人らしさ 生活支援
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 5. 6.	
A 知識・理解力			介護福祉士の役割や専門性を理解することができる			
C 論理的思考力			利用者主体の介護を常に考えることができる能力を養う			
G 倫理観			利用者の尊厳を遵守できる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %		レポート: 10 %		発表: %	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項: 本科目は、テスト及び授業態度や積極性を主に評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験やレポートの結果を本人に伝える。						
使用テキスト: 最新・介護福祉士養成講座3「介護の基本 I」中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ISBN978-4-8058-5763-2				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「介護」とは何かをしっかりと考えましょう。また生活することについてしっかりと考えましょう。						
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)
						学習内容
回数						
1	オリエンテーション 介護福祉士を目指す動機を考える 生活支援の全体像を理解する					介護福祉士をめざす動機や、めざす介護福祉士について考える。 【予習】30分 【復習】30分
2	介護福祉士の魅力と役割を学ぶ 介護福祉士からの特別講義 介護職員の仕事とは何かを理解する					介護福祉士をめざす動機や、めざす介護福祉士について考える。レポート作成。 【予習】30分 【復習】30分
3	介護の成り立ち、社会保障について					テキスト第1章1節を読む 【予習】30分 【復習】30分
4	介護の概念の変遷1970年代から					第1章2節を読む 【予習】30分 【復習】30分
5	介護の概念の変遷1990年代から					第1章2節を読む 【予習】30分 【復習】30分

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: 介護の基本 I		担当教員 氏名: 野村 幸伸	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	介護の基本理念	第1章3節-1	【予習】30分 【復習】30分
7	尊厳を支える介護、倫理について	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
8	自立を支える介護	第1章3節2・3	【予習】30分 【復習】30分
9	介護福祉士の役割と機能	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
10	地域包括システムと介護予防	第2章2節を読む	【予習】30分 【復習】30分
11	医療的ケアについての理解	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
12	人生最終段階の支援	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
13	災害時の支援とは	第2章1節-5を読む	【予習】30分 【復習】30分
14	災害時の介護	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
15	まとめと中間評価 介護福祉士に求められる生活支援を理解する	これまでの資料やテキストを確認	【予習】30分 【復習】30分
16	社会福祉士及び介護福祉士法の理解	第2章2節を読む	【予習】30分 【復習】30分
17	心身の状況に応じた介護	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
18	義務規定	第2章2節	【予習】30分 【復習】30分
19	介護福祉士法に関する規定	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
20	介護福祉士法に関する諸規定	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
21	個別ケアを考える		【予習】30分 【復習】30分
22	ユニットケアを考える		【予習】30分 【復習】30分
23	生活ニーズについて		【予習】30分 【復習】30分
24	介護福祉教育のはじまり	第2章3節	【予習】30分 【復習】30分
25	社会福祉専門職の役割	第2章3節	【予習】30分 【復習】30分
26	介護福祉士への期待	配布資料の確認	【予習】30分 【復習】30分
27	チームリーダーとしての役割と期待	配布資料の確認	【予習】30分 【復習】30分
28	介護福祉を支える団体	配布資料の確認	【予習】30分 【復習】30分
29	期末評価、学会について	配布資料の確認	【予習】30分 【復習】30分
30	まとめの授業	テキストや配布資料を確認する	

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: コミュニケーション技術 I			担当教員 氏名: 毎熊 由紀、黒田 美樹						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門科目	演習	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格			
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: 手話担当者は手話通訳士としての経験から基本的な手話の習得を目指す授業を行う。介護福祉士の経験から、要 介護者とのコミュニケーションに関し具体例を提示しながら授業を行う。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
要介護者への生活支援場面におけるコミュニケーションの意義と目的を知り、技法についての 目的や効果を理解し、演習を通して活用法を学びます。特に手話では、聴覚障害の理解と手話 によるコミュニケーションを学びます。また手話の概要と、自己紹介・簡単な会話ができる程度 の手話技術の習得を目指します。						手話 聴覚障がい 要介護者との信頼関係 生活支援の理解 家族			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 5. 6.				
A 知識・理解力			要介護者への基本的なコミュニケーションの知識・技術を学ぶことができる						
B 専門的技術			手話の基礎的技術を習得する。介護場面におけるコミュニケーション技術を習得することができる						
C 論理的思考力			要介護者・家族に対する適切なコミュニケーションを組み立てることができる						
H コミュニケーション力			手話によるコミュニケーションおよび高齢者難聴者との接し方を身につける。演習・事例を通し て要介護者へのコミュニケーションの実践力を養うことができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 黒田の回ではテスト70%、その他30%で評価し、毎熊の回に関してはテスト20%、レポート30%、その他50%(授業時の手話表現 (発表)および授業への参加姿勢を重視)します。手話の演習とコミュニケーション演習各50点の配点とし、合計点数を最終評価とします。黒田 の回に関しては、アクティブラーニングの一環としてグループディスカッションの形式を用います。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に最終評価のための試験とまとめを行います。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 各教員の筆記試験の結果をフィードバックします。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①【黒田】介護におけるコミュニケーションとは				テキスト2～5pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
②【黒田】介護におけるコミュニケーションの対象と援助関係				テキスト6～17pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
③【黒田】傾聴・受容・共感				テキスト20～32pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
④【毎熊】手話概論 手話の実技(挨拶)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑤【毎熊】手話概論 手話の実技(自己紹介)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑥【毎熊】手話概論 手話の実技(家族・人物の表)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑦【毎熊】聞こえのしくみと聴覚障害 手話の実技(数の表現)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑧【毎熊】聞こえのしくみと聴覚障害 手話の実技(趣味に関する表)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑨【毎熊】聴覚障害者とコミュニケーシ ョン				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑩【毎熊】高齢難聴者との接し方 手話の実技(会話練習)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑪【毎熊】まとめ				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑫【黒田】言語・非言語・準言語コミュニケーション				テキスト33～39pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
⑬【黒田】目的別のコミュニケーション				テキスト40～55pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
⑭【黒田】集団におけるコミュニケーション				テキスト56～59pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
⑮【黒田】グループにおけるコミュニケーション まとめ				テキスト60～67pを読む	【復習】30分				
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」編集介護福 祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5765-6 【手話】授業時にプリントを配布				その他参考文献など: ①「図とイラストで読む人間関係」福村出 版、水田恵三・西道 実編著 ②「私たちの手話 学習辞典Ⅰ」一般 財団法人全日本ろうあ連盟 ③「私たちの手話 学習辞典Ⅱ」一般 財団法人全日本ろうあ連盟 ④「手話で防災 ～聴覚障害者の災 害時支援のために～」一般財団法人全日本ろうあ連盟					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習には積極的に臨んでください。その取り組みの姿勢も評価します。また授業態度には十分気 をつけてください。									

社会福祉学科			介護福祉 専攻						
科目名: 生活支援技術 I-①			担当教員 氏名: 黒田寿江、梶美江子、藤本孝子、米原恭子、毛利亘 他						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	前期	専門科目	演習	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格			
実務経験を用いてどのよ、住環境・建築、家政学、生活支援に関する実務経験及び教育経験から、要介護者の生活を、個人・家庭・うな授業を行っているか、社会の視点で支援する方法を学ぶ演習を主とした授業を行う。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりについて学ぶ。身体的機能と栄養の基礎知識を理解し、食生活支援を実践するための技術を習得する。家事全般の基礎技術を理解する。介護を必要とする人の自立を援助する実力を養う。					家庭生活 食生活 家事				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			介護を必要とする人の自立に向けた居住環境を理解する。生活支援とは何かについて、家庭生活に関わる基本知識、家庭経営・家計の管理について理解する。栄養学的基礎知識の習得。家事の基礎知識と意義を学び、介護が必要な人の生活を考えることができる。高齢者、障害者にとつての食の意義を理解する。						
B 専門的技術			介護に必要な栄養学的知識の理解。家事全般基本的な技術を習得し、実践することができる。個別性のある食生活の自立を支援する調理技法を習得する。						
E 自己管理能力			自己の生活力が身に付く。						
H コミュニケーション力			自己・他者を理解し、他者と共感ができ、相手の立場に立って考えることができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:【黒田】[座学]テスト50%レポート30%、その他(参加姿勢など)20%【梶】テスト100%(テスト内にレポート課題含) 【毛利】授業の中で行う演習80%、その他(授業の参加姿勢など)20%【藤本】テスト80%、その他(授業への参加姿勢など)20% 【黒田・米原】[実習] レポート30%、その他70%(実技中心に行なう。グループ毎の仲間意識、先生とのコミュニケーションをとりながら学ぶことを重視する。レポートで実技の理解度を確認する。) 【米原】調理実習については、確認小テスト20%と実技内容80%で評価いたします。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実技試験等の実施時期: 最終コマ授業時にテスト実施。【黒田】レポート適宜提出・最終授業終了後試験 【米原】レポート提出									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 【梶】テスト解答用紙を集めた後、問題を確認させながら回答及び説明を行う【藤本】問題の解説を行う【米原】成果物に対する評価は口頭で行う(毎回)、レポートにはコメントを記入し返却する 【毛利】演習シートにコメントを入れ返却する									
使用テキスト: 最新・介護福祉士養成講座 編集介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術 I」中央法規出版 ISBN978-4-8058-5766-3					その他参考文献など: ・「福祉住環境コーディネーター検定試験」3級～1級・新家庭基礎(実教出版)・新図説家庭基礎(実教出版)・家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)・生活支援の家政学(健帛社)・イラスト 栄養学総論(東京教学社)				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各教員による評価を行うため、欠席はしないようにしてください。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
回数				学習内容		学習に必要な時間(分)			
授業日程は、担当教員により異なります。時間割を参照してください									
1	【黒田】<衣> 被服の機能			【復習】自分の衣服のラベルを調べる		【復習】60分			
2	【黒田】<衣> 被服の素材			【復習】教科書・プリントを覚える		【復習】60分			
3	【黒田】<衣> 被服の管理			【復習】洗剤のラベルをみる		【予習】60分			
4	【黒田】<衣> 高齢者の被服・寝具 および まとめ			【予習】教科書・プリントを覚える		【予習】60分			
5	【梶】<住> 自立に向けた居住環境の整備と意義の理解・快適な居住環境の 室内の環境・防犯・防火他を理解しアセスメント			【予習】教科書(居住環境の整備の意義と目的)を読む 【復習】自宅の居住環境を見直し、問題点を洗い出す		【予習・復習】120分			

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: 生活支援技術 I-①		担当教員 氏名: 黒田寿江、梶美江子、藤本孝子、米原恭子、毛利亘 他	
授業計画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	【梶】<住>安心して快適な生活の場作り・高齢者や介護を必要とする人が自分らしく暮らす為の住まいの整備を理解	【予習】教科書:第2章第4節熟読 【復習】自宅の図面作成・課題のアセスメントを行う	【予習・復習】180分
7	【梶】<住>介護保険での住宅改修及び施設空間での快適環境整備	【予習】教科書:第2章第5・6節熟読 【復習】集団の場で居住環境及び地域との関わり及び職種及び多職種の確認	【予習・復習】90分
8	【梶】<住>多職種とのチームケアによる居住環境の整備テスト(居住環境第2章及び授業より/レポート含む)	【予習】教科書第2章及び授業内での配布資料、授業内説明筆記内容より出題	【予習・復習】120分
9	【毛利】<生活>生活を理解する視点	【予習】テキスト「生活を理解する視点」を読む 【復習】演習を行う	【予習・復習】120分
10	【毛利】<生活>生活支援の基本的な考え方	【予習】テキスト「生活支援の基本的な考え方」を読む 【復習】演習を行う	【予習・復習】120分
11	【毛利】<生活>家庭生活の理解	【予習】テキスト「家庭生活の理解」を読む 【復習】演習を行	【予習・復習】120分
12	【毛利】<生活>家庭経営、家計の管理、まとめ	【予習】テキスト「家庭経営、家計の管理について」を読む 【復習】演習を行う	【予習・復習】120分
13	【藤本】<食>食生活の変化、栄養の概念	【予習】食生活の基本知識に関するプリント読む。 【復習】講義13の復習を行う。	【予習・復習】120分
14	【藤本】<食>栄養素の種類とその働き①	【予習】栄養素の理解に関するプリントを読む。 【復習】講義14の復習を行う。	【予習・復習】120分
15	【藤本】<食>栄養素の種類とその働き②	【予習】栄養素の理解に関するプリントを読む。【復習】講義15の復習を行	【予習・復習】120分
16	【藤本】<食>食品衛生について	【予習】食品衛生に関するプリントを読む。 【復習】講義16の復習を行う。	【予習・復習】120分
17	【黒田】<演習・実習>「整理と収納」(教室)	【復習】家庭で一部屋かワンコーナーで、整理と収納を実践する	【復習】60分
18	【黒田】<演習・実習>「ゴミの捨て方」「家計管理」(教室)	【復習】自分の地域のごみの捨て方を調べ、実際に分別してみよう/家計管理を続けてみよう	【復習】60分
19	【黒田】<演習・実習>「洗濯」上手になるために素材を知る、汚れに応じた洗剤選び(実習室)	【復習】靴下・セーター等を洗ってみよう	【復習】60分
20	【黒田】<演習・実習>「住まいの手入れ」掃除の予定・手入れ・汚れを知る(教室)	【復習】汚れやすい箇所を調べ、対策をたてよう/セスキ炭酸ソーダを使って掃除をしてみよう	【復習】60分
21	【黒田】<演習・実習>「衣類の収納とアイロンかけ」ワイシャツ・ブラウスのアイロンかけ	【復習】自分の衣服にアイロンをかけてみよう/防虫剤を使ってみよう	【復習】60分
22	【黒田】<演習・実習>「手縫いの基礎」	【予習】玉むすび・玉どめ・並縫いを習得しておく	【復習】60分
23	【米原】<演習・実習>「食事の基本」献立のたて方	【復習】1食分の献立を考え、講義26終了後に提出、講義29・30で実習します	【復習】60分
24	【米原】<演習・実習>「調理の基本」切り方と味付けの基本、加熱操作の分類と特徴	【復習】切り方のプリントを読む、講義25で実技確認します	【予習】60分
25	【米原】<演習・実習>「介護食に適した食品と調理法」消化の良い食事	【予習】調味料の計測プリントを読む	【復習】60分
26	【米原】<演習・実習>「介護食に適した食品と調理法」咀嚼しやすく、嚥下しやすい食事	【復習】講義27・28のレシピ中の調味料の重量を計測スプーンに換算する	【復習】60分
27	【米原】<演習・実習>「疾患予防と食事について」エネルギー、油脂、塩分を控える	【予習】疾患予防と食事についてのプリントを読む	【予習】60分
28	【米原】<演習・実習>「疾患予防と食事について」カルシウム、鉄、食物センイを多く摂る献立	【予習】疾患予防と食事についてのプリントを読む	【予習】60分
29	【米原】<演習・実習>「文化としての食」行事食、伝承料理、郷土食の調理	【予習】食品成分のプリントを読む	【予習】60分
30	【米原】<演習・実習>「文化としての食」食の楽しい演出	【予習】盛り付けのプリントを読む	【予習】60分

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: 生活支援技術Ⅱ-①			担当教員 氏名: 窪田 直美				
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次	前期	専門科目	演習	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格	
実務経験を用いてどのよ			介護福祉士の経験から介護に必要な技術実践を演習に取り入れ、安全・安楽・快適な生活支援技術を体験 うな授業を行っているか: し習得するよう授業を行う。				
						キーワード	
生活支援技術として必要な基礎的技術である、環境の整備や身支度、着脱の技術や移動の技術などを根拠を理解しながら習得します。また福祉用具を活用する意義についても実践を通し理解します。						自立支援 コミュニケーション 安全・安楽 清潔 福祉用具	
授業における学修の到達目標							
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7.		
A 知識・理解力			生活援助の基本的姿勢及び技術を理解することができる				
B 専門的技術			利用者に対する適切な生活支援技術および態度を習得することができる				
C 論理的思考力			科学的な根拠をもとに安全・安楽な技術を実践できる				
G 倫理観			利用者の尊厳を遵守した生活支援技術が展開できる				
H コミュニケーション力			自立支援や利用者主体の技術を行うためのコミュニケーション能力を養うことができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト: 50 %		レポート: %		発表: %		実技試験: 50 %	
						その他: %	
特記事項: 授業態度や取り組みの姿勢も評価時に参考とします。							
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク							
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 29回目にまとめ及び事例演習を実施します。30回目に振り返りをします。							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 筆記試験・実技試験共に結果を全体及び必要に応じて個人にフィードバックします。							
使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 出版 ISBN978-4-8058-5766-3 ②最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 出版 ISBN978-4-8058-5767-0			その他参考文献など: 「図解介護福祉士実技試験完全マスター」誠文堂新光社				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 適宜資料を配布しますので、各自で保管に留意してください。実習室で演習を行いますので指定のユニフォームを着用してください。							
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)	
						学習内容	
回数							
1	生活支援技術について1 オリエンテーション					授業で配布された資料の復習をする	予習30分 復習30分
2	生活支援技術について2 基本的概念					授業で配布された資料の復習をする	予習30分 復習30分
3	環境の整備1 静養・療養の環境整備とは					授業で配布された資料の復習をする	予習30分 復習30分
4	環境の整備2 ベッドメイキング～ベッドの使用					演習を振りかえる	予習30分 復習30分
5	環境の整備3 ベッドメイキング～リネンの扱い					演習を振りかえる	予習30分 復習30分

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: 生活支援技術Ⅱ-①		担当教員 氏名: 窪田 直美	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	環境の整備4 ベッドメイキング～実践	演習を振り返る	予習30分 復習30分
7	環境の整備5 ベッドメイキング～完成	演習を振り返る	予習30分 復習30分
8	身支度の介護1 身支度を整えるということ	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
9	身支度の介護2 整髪・洗面	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
10	身支度の介護3 爪や皮膚の手入れ	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む	予習30分 復習30分
11	身支度の介護4 点眼・口腔ケア	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む	予習30分 復習30分
12	衣服の着脱の介護1 上下衣の着脱	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む	予習30分 復習30分
13	衣服の着脱の介護2 片麻痺の方への着脱	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む	予習30分 復習30分
14	環境整備や身支度に関するまとめ	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む	予習30分 復習30分
15	衣服の着脱の介護3 片麻痺の方への衣類交換	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む	予習30分 復習30分
16	衣服の着脱の介護4 臥床状態にある方への着脱	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
17	衣服の着脱の介護5 臥床状態にある方への衣類交換	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
18	衣服の着脱の介護6 着脱の介護まとめの演習	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
19	着脱の介護まとめの演習	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
20	移動の介護1 移動の意義と目的・ボディメカニクスを意識した移動の介護とは、福祉用具の意義	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
21	移動の介護2 体位変換・臥床状態におけるベッド上での移動、福祉用具の活用	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
22	移動の介護3 起居・起立、福祉用具の活用	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
23	移動の介護4 歩行介助	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
24	移動の介護5 車椅子での移動	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
25	移動の介護6 車椅子での移動	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
26	移動の介護7 車椅子への移乗	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
27	移動の介護8 車椅子への移乗	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
28	事例演習1	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
29	事例演習2	演習を振りかえる	予習30分 復習30分
30	まとめと実習に向けての演習	演習を振りかえる	予習30分 復習30分

社会福祉学科			介護福祉 専攻			
科目名: 介護過程 I			担当教員 氏名: 毛利 亘			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次	前期	専門科目	演習	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 介護従事者の経験から個別援助計画の重要性とチームケアを伝える。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
介護福祉士には専門的知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力が求められます。本科目ではその介護過程の意義と目的、介護過程そのものの理解を深めます。					利用者理解 利用者主体 思考	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 9.	
A 知識・理解力		介護過程の目的と意義を理解することができる				
C 論理的思考力		アセスメントから利用者のニーズを把握し、必要な介護実践の組み立てができる				
D 問題解決力		課題達成のための方法を模索し、解決策を見出すことができる				
F チームワーク・リーダーシップ		チームケアの概念を養うことができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: その他の30%とは、演習の取り組みの姿勢、提出物や課題などの期限の遵守です。またテストとは演習課題をいいます。発表・実技試験等の実施時期: 7回目に中間評価のための課題説明をし、後日提出を求めます。15回目に振り返りとまとめを行います。アクティブラーニングの一環として、グループによる演習を行います。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 筆記試験及び演習シートにコメントし個人にフィードバックします。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 筆記試験及び演習シートにコメントし個人にフィードバックします。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①介護過程とは、おおまかな解釈			テキスト「介護過程」2～11pを読む	【予習】30分 【復習】30分		
②生活支援の考え方と介護過程の必要性			テキスト「介護過程」11p～22pを読む	【予習】30分 【復習】30分		
③根拠に基づく介護過程の展開			事後授業資料を読み返す	【復習】30分		
④個別ケアの視点			事後授業資料を読み返す	【復習】30分		
⑤ICFの視点			事後授業資料を読み返す	【復習】30分		
⑥生活の中の自立について考える			事後授業資料を読み返す	【復習】30分		
⑦事例演習			事後授業資料を読み返す	【予習】30分 【復習】30分		
⑧情報の収集・整理			テキスト「情報の収集」を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑨情報の解釈			テキストの「アセスメント」を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑩アセスメント～生活課題とは			テキストの「アセスメント」を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑪課題の明確化			資料を振り返る	【予習】30分 【復習】30分		
⑫事例を用いたアセスメント演習①情報の解釈			資料を振り返る	【予習】30分 【復習】30分		
⑬演習①の振り返り～情報の関連性を客観的に捉える			資料を振り返る	【予習】30分 【復習】30分		
⑭事例を用いたアセスメント演習①課題の明確化			資料を振り返る	【予習】30分 【復習】30分		
⑮演習②の振り返り～課題の明確化の際の留意点・まとめ			資料を振り返る	【予習】30分 【復習】30分		
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座9「介護過程」中央法規出版 ISBN978-4-8058-5769-4 介護福祉士養成講座編集委員会編集			その他参考文献など: 「その人を中心に考える介護計画」現代図書			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習には積極的に取り組んでください。取り組みの姿勢を評価します。また2週連続して行う演習もあるので欠席はしないように努めてください。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: 介護総合演習 I				担当教員 氏名: 毛利 亘		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 前期	専門科目	演習	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:				介護従事および施設管理者の経験から、高齢者施設介護や業務について理解を促します。		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
本科目は利用者との人間的なふれあいを通して、基本的な生活援助技術、コミュニケーション技術を学び、個別ケアの重要性の理解、介護福祉士の役割の理解といった目標を持つ実習 I-①に関する事前・事後指導科目です。				介護実習 I-① 入所・通所サービス 地域における生活支援		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 4. 5. 6. 7. 9.		
A 知識・理解力		実習 I-①の目的を理解することができる				
B 専門的技術		利用者主体で関わるることができる				
C 論理的思考力		自身の実践を振り返り考察する能力を養うことができる				
G 倫理観		介護福祉士としての倫理を理解することができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項: その他50%は授業態度や取り組みの姿勢、実習記録ファイル等の提出を評価します。また実習終了後の報告会に関する評価も含まれます。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実習前に理解度を把握するテストをします。実習終了後に最終評価として報告会を行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 筆記試験及び演習用シートにコメントします。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①実習とは				実習要綱2pを読む	【予習】30分 【復習】30分	
②実習施設の理解1				実習要綱3pを読む	【予習】30分 【復習】30分	
③実習施設の理解2 地域における生活支援～通所介護～				実習要綱実習プログラム例を読む	【予習】30分 【復習】30分	
④記録1 オリエンテーションの記録				授業で配布された資料を復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤記録2 かかわりの記録				授業で配布された資料を復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥記録3 考察とは				授業で配布された資料を復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦記録3 目標とは				授業で配布された資料を復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧記録4 日々の記録				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分	
⑨記録5 経歴録や必要書類の理解				授業で配布された資料を復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩記録4 日々の記録②				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分	
⑪事前打ち合わせ訪問に向けて				授業で配布された資料を復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑫特別講義				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分	
⑬事前訪問報告会				授業で配布された資料を復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭留意事項の確認				授業で配布された資料を復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑮直前オリエンテーション・実習報告会に向けて				授業で配布された資料を復習	【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ISBN978-4-8058-5770-0 ②「介護実習要綱」				その他参考文献など: 「介護職のための根拠に基づいた記録の書き方」エルゼビア・ジャパン 是枝祥子・佐藤富士子・浦尾和江・嶋田美津江編著		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 介護実習要綱及び実習ファイル等は授業の中で配布します。自己管理に留意すること。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻			
科目名: 発達と老化の理解 I			担当教員 氏名: 吉田 良昌			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか:						複数の介護福祉士が一つの施設で仕事するときには、チームワーク、協調性が必要になります。施設で必 要とされる介護福祉士になるためにはどのような心掛けが必要か授業で話をします。
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
人体の解剖と生理機能を理解する テキストに表示されている疾患の概要を学ぶ 最先端医療の概要を知る 精神発達の学問を学ぶ					発達、老化、主な疾病の理解、最先端医療	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			授業内容を理解する			
B 専門的技術			介護理論の実践			
C 論理的思考力			担当者の状況を総合的に把握する思考力をつける			
D 問題解決力			自分で考え、わからなければ相談する。やり遂げるという習慣を身に着ける			
E 自己管理能力			向上するために、自己修正できる。医療者にふさわしい徳育を身に着ける			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 70 %		発表: 20 %		実技試験: 0 %
その他: 10 %						
特記事項: 自分で調べてレポートを作成すること、他者の真似はしないこと						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 テキスト・ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 前記、後期						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートを採点して返却						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①人体の構造と機能、一般臨床医学の概要、現代社会の代表的な疾病の概要等につ いて、各回のテーマに沿って学ぶ。 ①人間の成長と発達(人間の成長・発達と心理的理解)				テキスト・スライド	60分	
②発達の定義				テキスト・スライド	60分	
③発達段階と課題				テキスト・スライド	60分	
④老年期の発達と成熟				テキスト・スライド	60分	
⑤老化とは何か				テキスト・スライド	60分	
⑥追いの価値				テキスト・スライド	60分	
⑦中間のまとめ				テキスト・スライド	60分	
⑧高齢者と健康				テキスト・スライド	60分	
⑨高齢者の疾患				テキスト・スライド	60分	
⑩おもな疾患の特徴				テキスト・スライド	60分	
⑪最先端医療				テキスト・スライド	60分	
⑫おもな疾患の特徴				テキスト・スライド	60分	
⑬おもな疾患の特徴				テキスト・スライド	60分	
⑭おもな疾患の特徴				テキスト・スライド	60分	
⑮おもな疾患の特徴				テキスト・スライド	60分	
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」中 央法規出版 ISBN978-4-8058-5771-7 C3036、最新介護福祉士養成 講座12「発達と老化の理解」中央法規出版 ISBN978-4-8058-5772-4				その他参考文献など: 授業ではスライドを使用するこ とが多いです。 適時DVDも使用します 新聞やテレビの内容を紹介することもあります		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 他の受講者の迷惑にならないように受講態度に気をつける。ゲームをしないこと。積極的に発言する。教官が入室したら、背中をみ せずに着席すること。社会人としてのマナーを実践すること。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1年

科目名: 障害の理解 I			担当教員 氏名: 境 美代子			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 前期	専門科目	講義	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師としての臨床経験を活かし、基礎的知識を習得できる授業をする。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
障害の概念、障害者福祉の理念から障害について基礎的に理解し、障害のある人の生活を捉える。					障害の概念 障害の理念 障害と生活 連携と協働 家族支援	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力		障害福祉の理念を理解し障害のある人について知識・技術を身につける				
B 専門的技術		障害のある人の社会参加や活動を理解し介護の専門性を高める				
F チームワーク・リーダーシップ		他職種の役割を理解し障害のある人の状況を考えることができる				
D 問題解決力		尊厳を支えるケアの視点に立ち社会福祉に生きる私になる				
H コミュニケーション力		他者に共感し相手の立場に立って考えるコミュニケーションができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 20 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: その他の10%は、授業態度、参加姿勢を評価します。本科目は、アクティブラーニングを基本とするため、講義中に障害者との関わり方、より良いケアについて、学生間で学び合い、論議し、レポート作成や発表を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第15回目に全体の振り返りを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し返却します。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①障害の概念		【予習】テキストを読む。 【復習】①の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
②障害者福祉の基本理念		【予習】テキストを読む。 【復習】②の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
③障害者福祉に関する制度と介護保険制度		【予習】テキストを読む。 【復習】③の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
④視覚障害のある人の生活(医学的・心理的・生活の理解、介護上の留意点)		【予習】テキストを読む。 【復習】④の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑤聴覚・言語障害のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑤の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑥重複障害のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑥の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑦肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑦の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑧内部障害のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑧の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑨知的障害のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑨の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑩精神障害のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑩の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑪高次脳機能障害のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑪の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑫発達障害のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑫の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑬重症心身障害のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑬の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑭難病のある人の生活(")		【予習】テキストを読む。 【復習】⑭の復習する。			【予習】30分 【復習】30分	
⑮障害による心身の影響や心理的変化		【予習】テキストを読む。			【予習】30分	
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座14『障害の理解』中央法規出版 ISBN978-4-8058-5774-8 C3036				その他参考文献など: 介護福祉用語辞典		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 障害のある人について理解を深めよう。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻			1年
科目名: こころとからだのしくみⅢ				担当教員 氏名: 宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師としての臨床経験を活かし、基礎的知識を習得できる授業をする。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
「こころとからだのしくみ」についてICFの視点に基づき、利用者の身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持などの生活場面における根拠に基づいた生活支援ができる。これらの学習は、実践現場で他職種との協働の際に、より深く学んでいくための基礎となる重要な科目である。					心と体のしくみ 心身機能 根拠 ICFの視点	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力			人体の構造や機能を学び安全な生活支援ができる知識や技術を習得する。保健医療に関する基礎知識について理解する。			
B 専門的技術			根拠に基づいた生活支援の実践を通して介護に関わる専門性を発揮する。			
D 問題解決力			ICFの視点から情報を収集・分析して、利用者のニーズに応じた生活支援ができる。			
H コミュニケーション力			心身のケアを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につける。			
F チームワーク・リーダーシップ			生活場面における心と体の変化や気づきから、医療職との連携が図れる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %		レポート: 20 %		発表: 20 %		実技試験: % その他: 20 %
特記事項: その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回目にレポート提出を課す。第15回目に全体的な総括と理解度を確認をする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①「こころとからだのしくみ」についてオリエンテーション				【予習】心と体の関連性を考えてくる 【復習】①の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②身じたくに関連したしくみ(身じたくのしくみ)				【予習】テキストを読む 【復習】②の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③心身機能の低下が身じたくに及ぼす影響を理解する				【予習】テキストを読む 【復習】③の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④身じたくについて変化の気づきと対応				【予習】テキストを読む 【復習】④の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤移動に関連したしくみ(移動のしくみ)				【予習】テキストを読む 【復習】⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥心身機能の低下が移動に及ぼす影響を理解する				【予習】テキストを読む 【復習】⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦移動について変化の気づきと対応				【予習】テキストを読む 【復習】⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧ICFの視点で事例を通して学ぶ				【予習】①～⑦の配布プリントを読む 【復習】⑧の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨食事に関連したしくみ(食事のしくみ)				【予習】テキストを読む 【復習】⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩心身機能の低下が食事に及ぼす影響を理解する				【予習】テキストを読む 【復習】⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑪食事について変化の気づきと対応				【予習】テキストを読む 【復習】⑪の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑫入浴・清潔保持に関連したしくみ(入浴・清潔保持のしくみ)				【予習】テキストを読む 【復習】⑫の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑬心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を理解する				【予習】テキストを読む 【復習】⑬の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭入浴・清潔保持について変化の気づきと対応				【予習】テキストを読む 【復習】⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑮「こころとからだのしくみ」を学び根拠に基づいた生活支援についてのまとめ ※社会福祉と医学(疾病と生活問題・医学的リハビリテーション)を含む				【予習】⑧～⑭の配布プリントを読む	【予習】30分	
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座11『こころとからだのしくみ』中央法規出版 ISBN978-4-8058-5771-7 C3036				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介をする。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布資料は、ファイル等で各自保管してください。この科目は、生活支援技術の根拠となる分野である。しっかりとマスターしてください。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻						
科目名: 介護実習 I-①			担当教員 氏名: 毛利 亘						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	1年次	前期	専門科目	実習	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 福祉・医療現場の経験者である専任教員が巡回指導を行います。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
利用者との人間的なふれあいを通じて、基本的な生活支援技術、コミュニケーション技術を学び、個別ケアの重要性を理解する。また他職種協働の実践を通して、チームケアの一員として介護福祉士の役割を理解します。					介護ニーズ 個別ケア 基本的な生活支援 コミュニケーション				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			利用者の生活や介護ニーズを理解することができる						
B 専門的技術			基本的な生活支援技術を経験することができる						
F チームワーク・リーダーシップ			介護職員の役割を理解することができる チームケアを知ることができる						
G 倫理観			利用者の尊厳を守ることができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	100 %
特記事項: 施設評価60%と巡回時の評価20%、学内における評価(実習記録)20%で成績評価します。高齢者施設において指導者から指導を受けながら介護実践を行います。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 施設評価を個人面談形式で伝達します。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な時間(分)				
①			日々の記録を通して振り返る		予習・復習30分				
②									
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦			詳細については「実習要綱」に記載						
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ISBN978-4-8058-5770-0 ②「介護実習要綱」			その他参考文献など: 「介護職のための根拠に基づいた記録の書き方」エルゼビア・ジャパン 是枝祥子・佐藤富士子・浦尾和江・嶋田美津江編著						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習は利用者の生活の場で行われるものなので、十分にそのことを認識して真摯に臨んで下さい。									